

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 18 号

平成元年 9 月 29 日発行

編集者 大野 良樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市
瀬谷区瀬谷5-22-1石井方
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

学部の現状と水産食品化学研究室（水産食品学講座教授 佐藤美和）
職場紹介「魚を見分けるプロの目と商品に対する情熱」

（6 A・佐藤伊豆男）

「平成元年度三水会総会開催」

関東地区懇親会に参加して（4 A・永沢明夫）

「第2回銀鮭養殖を考える会」開催（2 A・安藤七郎）

第16回水産学部体育祭（体育祭実行委員長 櫻井 要）

—インフォメーション—

* 同期会等の助成について

* 通信販売のお知らせ



（水産学部が7月に発行した学部紹介パンフレット）

鮭の一生を共に歩みながら、自然を見つめる視点から水産学を解説した物語風の構成になっており、
8期生の4人の卒業生（伊地知、神田、鬼塚、佐伯の各氏）が中心となって編集したものです。
（希望者には、先着50名に限り、1部500円にて販売。詳細については水産学部学生課）

学部現状と水産食品化学研究室

水産食品学講座教授 佐藤 美和



12回生と仙人峠にて

三水会総会に出席して、学部の現状と水産食品化学講座の最近の研究内容を簡潔に話すよう要請をうけ、五月二十八日に白金本館の会場に出かけた。出席者は旧い年次の卒業生諸君が多かった故か、いずれも中年の域に達した紳士ばかりで名前と顔を一致させるのに苦労した。月日のたつのは早いものだ。その際、会報の原稿をとの話で、当日の話題提供の概要を取りまとめ以下に簡単に述

べる。

先ず、本年の学部は増殖学科に新たに基礎生産学講座が増設され、四月一日付で東京大学農学部から平野教授が着任された。これで両学科各五講座の態勢に入り教育、研究面でより充実したものになるであろう。

さらに、教員の人事では水産利用学講座の高橋助手が医学部へ転任後の後任として、ノルウエーからD・ランドウィーバー女史が赴任され、学内は華やかさと国際化が一段と促進されつつある。施設面では今夏、実験動物飼育室と文化部クラブ室が新設されることになっている。学部の施設、設備面も徐々にではあるが充実されつつある。

水産食品化学研究室の研究内容については、学部開設以来一貫して実験材料は海藻と海産無脊椎動物を中心として実験を進めている。詳しい内容は「学部だより」をお読みいただきたい。研究成果のうち海産無脊椎動物については、「軟体動物筋肉のオピン類に関する研究」のテーマで、

佐藤実助教授が本年四月の水産学会において水産学会奨励賞を受賞された。また、海藻については「海藻の硫酸代謝に関する研究」のテーマで、菅野助手が東北大学農学部において学位を授与されることになっている。何れも研究室卒業の諸君には、卒業論文実験として一部を分担していただいた。紙上をかりて御礼申しあげ

る。

職場紹介

「魚を見分けるプロの目と商品に対する情熱」



自分の勤務する㈱三徳は、食料品中心のスーパーマーケットチェーンで、創業は昭和二十四年、正社員数七五〇名、年商四〇〇億の中堅企業

期のことがいやに思いだされる。当時は教員の人数も少なく皆んな若かった。学生諸君も少人数であり共に学部建設に当たったが、お互いに若さの発散か時に意思や意見を異にし、激論に時を費やしたこともあった。しかし、何れか新しいものが出来るような、また、作り出そうという気持ちも強かったように思う。往時の学生諸君の意気を思うとき、現在果たして同様の或はそれ以上の理想と覇気ありやいなや考えているところである。

佐藤 伊豆男(6A)

です。高級、こだわり指向に徹し、自社で食品加工場、製パン、製菓工場、漬物工場、麺工場、物流センター、活魚蓄養配送センターなどを持ち、自社で売る物に対しては全てにおいて徹底的にこだわっているユニークな会社です。

本社は新宿区大久保にあり、店舗は都心を中心に二三、千葉に三、埼玉に一、計二七店舗あります。また、関連事業としてレストランチェーン、ラーメンチェーンの運営もしていま

す。

全国の中堅スーパーの共同仕入れ機構であるCGCジャパンは当社が昭和四十八年に貿易部を独立させたもので社屋も同じビルにあります。

現在、自分は本社の商品販売部に属し、鮮魚の仕入れ担当バイヤーをしています。自分の仕事は毎日朝五時に、築地市場に入り、くまなく場内を見て、当日の入荷量、相場の動きを見ながら、全店舗から出された各魚種別のオーダーを元に買い付けをします。自分の目で見て、手で触れ、食べ、当日集荷された物の中から「これだ!!」という物を探し、全店に送ります。自分の判断一つで、全店舗の商品が決まってしまうわけですから、責任は重大です。魚を見分けるプロの目と商品に対する情熱、適確な判断力、この三つを常に心がけて



いますが、まだ失敗も多く毎日が勉強です。毎朝早く、特に冬は一番つらい仕事ですが、やりがいはいくらもあり、毎日が充実しています。

市場仕入れは全体の三〇パーセントで他は産直で仕入れられています。北海道から九州、最近では海外からも直接魚を仕入れています。自分で産地に行き、生産者や地方の業者と商談し、商品開発をする事も自分の重要な仕事です。この会報が配られる頃には越喜来湾で特別に養殖した銀鯉が搬入される予定です。

「生産者から販売者まで全ての人々が正当な利益を得られ、消費者に喜ばれる魚の流通は出来ないのか?」これは自分が在学中より思っていた事です。少しずつではありますがそんな自分の夢に近い仕事が出来る様になりました。仕入れ担当になったのは昨年の六月からでその前は部門チーフを五年、部門員を三年と八年間店舗に勤務しました。八年間の店舗での経験が、仕入れをする上で最も良い勉強になり現在に至っておりますが、つらい事も有り、何度か転職を考えた事もあります。自分の夢を常に持ち続け、「いつかはそうなる!!」と信じた事、またその事を真剣に受け取ってくれた上司がいた事、

この二つが現在の自分を作ってくれたと思います。また、仕事の関係上、同業種、関連企業に母校の卒業生が多くいる事は自分にとって一番の利点となっています。最近では先輩、後輩のいる企業とのビジネスも増えています。水産学部出身同士という事で他にない信頼関係が生まれる事は素晴らしい事です。最近、月に一度、食品、水産関係の卒業生同志の集まる会もあり、仕事抜きの情報交換が出来大変助かっています。その席でお酒の勢いからか、「水産学部卒業生の輪を広げ、日本、いや世界の水産物の流通を我々の手で作ろう!!」なんて話も出るほどです。夢の様な

話ですが、「近い将来必ずその夢が実現するのでは?」とみんな目が光輝いています。

また、当社では北里水産の卒業生を水産部の今後の柱に採用する事になり、自分は大卒の求人担当もしています。

今後自分の夢と卒業生との信頼を大切に、がんばって行くつもりです。

同志卒業生諸士、諸兄、学生諸君、水産学部に誇りを持ちお互いがんばりましょう。

連絡先

自宅 ○四二三七六九八七九

勤務先 ○三二〇三三一一一

「平成元年度三水会総会開催」

去る五月二十八日(日)午前十一時より、白金校舎北里本館二階大会議室において、平成元年度本会通常総会が開催され、本年度の事業計画、予算等が審議、決定されました。

総会は、代議員本人二二人、委任状出席十九の計四一人の出席のもとに開催され、六十三年度事業報告、決算についての報告を受け、これを承認した後、会報の発行、各種親睦

会の開催等とする元年度事業計画、予算案について協議を行い、原案どおりこれを承認しました。

また、今年度は、代議員及び理事の改選年度にあたり、会員及び卒業生研究室より推薦を受けた、増殖学科二五名、食品学科二五名の代議員候補者について審議の結果、全員を承認いたしました。続いて、新代議員の中から一七名の理事および二名の

昭和63年度三水会収支決算

支 出 の 部			収 入 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
1. 事業費	3,080,000	2,765,148	1. 部会助成金	4,329,495	4,329,495
(1)会報発行費	850,000	889,171	2. 預金利息	70,000	27,711
(2)学部だより配布費	300,000	308,000	3. 前年度繰越金	420,904	420,904
(3)同期会等助成費	100,000	10,000	4. 雑 収 入	150,000	116,000
(4)講演会費	80,000	63,020	5. 1～7期生終身会費	100,000	180,000
(5)親睦会費	800,000	822,352			
(6)大学・学生との懇談会費	300,000	273,350			
(7)学友会助成費	250,000	150,000			
(8)就職ガイダンス費	100,000	69,900			
(9)漁船海難遺児育英会寄付	100,000	100,000			
(10)全学講演会関係費	200,000	79,355			
2. 運営費	1,780,000	1,480,171			
(1)印刷・通信費	380,000	358,052			
(2)会 議 費	400,000	370,525			
(3)総 会 費	250,000	151,780			
(4)事務局費	600,000	472,105			
(5)慶 弔 費	50,000	41,530			
(6)外 渉 費	100,000	86,170			
3. 予備費	210,363	828,755			
(1)予備費支出					
(2)次期繰越金		829,035			
合 計	5,070,363	5,074,074	合 計	5,070,363	5,074,074

監事を選出いたしました。
総会終了後、午後一時より同会場において講演会を開催し、水産学部佐藤教授より、三陸の現況、研究内容等についての講演をいただき、スライドをまじえての講演に参加者は懐かしくまた熱心に聞き入りました。講演会終了後、懇親会が催され、佐藤先生を中心に、懐かしい話しが交され楽しい一時が過ごされました。総会において承認された本年度の事業計画、予算、代議員、理事、監

事は次のとおりです。
昭和六十三年三水会事業報告
1、会報の発行
同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を六十年九月と平成元年三月の二回発行した。
2、「水産学部だより」の配布
本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布した。
3、会員の現況の把握

- 4、同期会等の助成
申請のあった講座別同窓会、同期会等卒業生の集会の費用の一部を助成した。
- 5、講演会の開催
六十三年五月に橘高教授に協力願い、学術的な発表、大学の現況等についての講演会を白金校舎にて開催した。
- 6、親睦会の開催
会員を対象とした親睦会を白金校舎、山梨県にて開催した。
また、小林教授に協力願い、銀鮭養殖に関係する会員によるシンポジウム「銀鮭養殖を考える会」を白金校舎にて開催した。
- 7、懇談会の開催
大学、水産学部在学生との懇談会を三陸にて開催し意見交換を行った。
- 8、学友会助成
大学祭、体育祭費用の一部を助成した。
- 9、就職ガイダンスの開催
卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行った。
- 10、漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行った。
- 11、全学同窓会講演会に対する協力
六十三年十月に三陸町において畑正憲氏を講師に開催された、全学同窓会講演会の開催について、講師依頼、会場設定、広報活動等について協力した。
- 平成元年度三水会事業計画
- 1、会報の発行
同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を二回発行する。
- 2、「水産学部だより」の配布
本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布する。
- 3、会員の現況の把握
全学同窓会と連携し、不明会員の調査等名簿情報の正確性の向上に努める。
- 4、同期会等の助成
同期会、講座別同窓会、等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

平成元年度三水会予算案

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
1. 事業費	3,100,000	1. 部会助成金	4,290,112
(1)会報発行費	920,000	2. 前年度繰越金	828,755
(2)学部だより配布費	330,000	3. 預金利息	30,000
(3)同期会等助成費	100,000	4. 雑 収 入	100,000
(4)講演会費	80,000	5. 1～7期生終身会費	100,000
(5)親睦会費	1,000,000		
(6)大学・学生懇談会費	250,000		
(7)学友会助成費	250,000		
(8)就職ガイダンス費	70,000		
(9)漁船海難遺児育英会寄付	100,000		
2. 運営費	1,940,00		
(1)印刷・通信費	440,000		
(2)会 議 費	450,000		
(3)総 会 費	250,000		
(4)事務局費	650,000		
(5)慶 弔 費	50,000		
(6)外 渉 費	100,000		
3. 予備費	308,867		
合 計	5,348,867	合 計	5,348,867

- 5、講演会の開催
学術的な発表、大学の現況等について水産学部の先生方に講演していただく会を白金校舎にて行なう。
- 6、親睦会の開催
会員を対象とした親睦会を、總會終了後並びに関東地区及び北海道地区において開催する。
- 7、懇談会の開催
大学、水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換を行う。
- 8、学友会助成
クラブの活動費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。
- 9、就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行う。
- 10、漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行う。

役員一覧（理事17名：監事2名）

会 長	長 屋 信 博 (1A)	企 画	田 村 治 (2A)	会 報	島 田 和 明 (1F)
副 会 長	大 野 良 樹 (1A)	企 画	関 口 敬 二 (3A)	会 計	田 中 和 良 (2A)
副 会 長	長谷川 一 敏 (3A)	企 画	畠 山 俊 之 (4A)	名 簿	横 堀 昌 道 (2A)
全学同窓会	其阿弥 喜 嗣 (1A)	企 画	小 川 治 男 (5F)	監 事	伴 圭 司 (1A)
総 務	石 井 美 華 (4A)	企 画	太 田 浩 司 (6F)	監 事	佐々木 英 生 (1F)
総 務	坂 本 雅 哉 (6F)	企 画	佐 藤 伊豆男 (6A)		
総 務	斉 藤 有紀子 (8A)	企 画	中 村 栄 (9A)		

代議員一覧（計50名，*：役員）

増殖学科：25名

*其阿弥 喜 嗣 (1A)	*長 屋 信 博 (1A)	田 村 一 夫 (1A)	*伴 圭 司 (1A)
*大 野 良 樹 (1A)	*横 堀 昌 道 (2A)	田 代 茂 年 (2A)	*田 中 和 良 (2A)
*田 村 治 (2A)	小 野 十美雄 (3A)	鈴 木 英 之 (3A)	*関 口 敬 二 (3A)
*長谷川 一 敏 (3A)	落 合 武 志 (4A)	*石 井 美 華 (4A)	*畠 山 俊 之 (4A)
*佐 藤 伊豆男 (6A)	浅 見 信 生 (6A)	*斉 藤 有紀子 (8A)	清 水 誠 (8A)
*中 村 栄 (9A)	垣 内 省 吾 (9A)	高 坂 一 郎 (10A)	平 本 愛 明 (12A)
富 樫 裕 一 (13A)			

食品学科：25名

石 川 義 行 (1F)	*佐々木 英 生 (1F)	*島 田 和 明 (1F)	宮 川 忠 彦 (1F)
中 村 年 彦 (2F)	野 上 勝 弘 (2F)	城 真 市 (2F)	西 村 哲 典 (3F)
安 達 泰 史 (3F)	佐 藤 敏 行 (3F)	横 山 茂 (4F)	水 野 幸 司 (5F)
*小 川 治 男 (5F)	高 橋 明 義 (5F)	*坂 本 雅 哉 (6F)	飯 塚 信 之 (6F)
堀 内 岳 郎 (6F)	*太 田 浩 司 (6F)	砂 原 誠 司 (7F)	清 康 一 (7F)
児 玉 雄 司 (7F)	三 石 昇 (7F)	池 田 穂 高 (8F)	本 橋 清一郎 (10F)
松 井 完 二 (10F)			

関東地区懇親会に参加して

永沢明夫 (4A)

七月二日、くもり。八時に東京都都議選挙をすませて秋山村へ出発した。去年は子供が熱を出し申し込みのきもなく前日にキャンセル。今年は全員体調良好。

中央高速の途中で霧雨。相模湖インターを降りて、四〇分位、十時過ぎに秋山村に到着した。すでに何組かは、釣始めていた。卒業以来初めて会う級友との会話の中に知り合いの近況を耳にした。

子供達に餌のイクラを見せると目の色をかえて「たべたい。お寿司屋さんの?」と、とても上等なイクラだった。

早速針に餌をつけ、娘にもたせるとすぐにかかった。釣は何度か経験している子供達だが、竿をもつての釣りは初めて、「キヤーワー」と、大騒ぎ。その中で、のまれた針をはずすのはひと苦労。しばらくすると子供達は、川の中へ入って水遊びに熱中した。洋服や靴はもうすでにビショヌレであった。今度は子供にかわって妻が竿をもった。釣が初め

ての妻にも、とてもよく釣れていた。その度と呼ばれ、針をはずすのがとても忙しい。十二時の集合がかかるまでにかなり釣れた様子だ。

昼食は、バーベキューでニジマスの塩焼き、とうもろこし、焼肉、野菜炊め、たくさんのおにぎり、豚汁、ビール、ジュース、実に旨かった。子供達は焼とうもろこしをほうばっていた。



午後から又、釣始めた。子供達はもう勝手に川の中で遊んでいる。頭が良く、すばしっこい魚しか残っていないのか午前中程は釣れなくなっていた。

何度も見え隠れしている大物がいる。

「あれを、狙え。」だが仲々かからない。そろそろ集合がかかるという頃、妻が重たそうに釣上げた。これが最後となったが、三九cm、八三〇gで二番目の大きさであった。釣果は四一尾で六・五kgで見事に優勝。

本当に楽しい一日でした。子供達も大喜び、妻も大満足。ぜひ、来年も参加させていただきます。

幹事の皆様、どうもごろうさまでした。そしてありがとうございます。来年もろよくお願いいたします。

追記

四一尾のニジマスの行方。



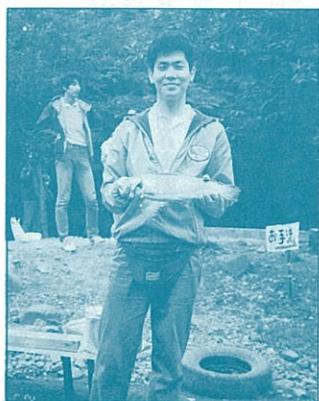
優勝した永沢君のご一家

隣近所、実家、あちこちの方々に大盤振舞で配ってしまった為に、家には大物一尾が刺身で食卓にのっただけでした。数日後、皆さんから「おいしかった」の声が届きました。

本日の成績(総重量kg) ●賞品

優勝 4A 永沢明夫 ●クーラ大
四一尾 六・五(大物)三九cm
準優勝 4A 古藤秀典 ●クーラ中
四〇尾 六・〇(大物)三九cm
三位 9A 中村 栄 ●クーラ小
四〇尾 五・八
大物賞 9A 中村 栄 ●帽子
四五cm 一・二五

尚、今回の釣大会に際し、多数の賞品を格安にて提供して下さい、ダイワ精工(株)の浅井純一郎氏(3A)に感謝いたします。(三水会会長)



大物賞の中村 栄君

「第二回銀鮭養殖を考える会」開催

安藤 七郎(2A)

去る七月九日三陸町の公民館において、水産学部有志の主催により「第二回銀鮭養殖を考える会」が開催された。

銀鮭の海面養殖は、開始以来十余年を経過したが、この間、様々な問題を含みながらも生産量は、年々着実な伸びをみせ、本年も昨年度を概ね二〇%上回る二万トン近い生産が見込まれている。

一方、本年の海面養殖生産物の価格は、養殖物を含む輸入鮭が潤沢であった事等により昨年に比べ大幅な安値となり、海面養殖家はかつてない厳しい状況に立たされている。特に、従来から端境期のフレッシュ商品として、需要をまかなって来た銀鮭にとって、年間を通して供給が切れる事のない海外養殖鮭の輸入量の増加は、大きな脅威となつて



来ており、「生産コストの軽減及び製品品質の向上」等による養殖銀鮭の競争力アップが急務となつて来ている。

今回の「考える会」は、海面及び淡水養殖業・製品流通・薬剤・飼料関係等、各業種で銀鮭養殖に携わっている同窓生有志のみならず、地元

の海面養殖家、水試の方々の参加も戴き、四〇名を越す出席者により、主に、「海面養殖」と「製品品質面」

に関わる様々な問題について討議が行われたが、前途の様な厳しい状況を背景に終始、熱のこもった発言が、取り交わされた。

さらに、「討論」をはさみ太田教授より「水産物の味」についての講演も戴き、加えて、出席者により各種鮭の食味試験が行われる等、内容盛沢山の一日であった。今回の討議内容の

詳細については、別途、取りまとめられると思われるが、斯様な意義のある「考える会」を開催出来た事に

については、ご協力を戴いた関係の皆様、厚く御礼を申し上げ、今回の概要報告と致します。

第十六回水産学部体育祭

体育祭実行委員長 櫻井 要

北の里、三陸町が初夏の陽気に恵まれた、五月二十七日、二十八日の両日、第十六回体育祭が行われました。参加団体も昨年より増え、スケールも大きくなり、駅伝・ソフトボール・ドッチボール・バレーボール・棒たおし等が行われました。

級生と新二年生との交流が計られたことでした。このことにより、先輩と後輩の和が広がり、より親しい関係を持てる様期待しております。最後に、今大会の運営にあたって御協力をいただいた諸先生方、先輩方、また職員の方々に厚く感謝致します。

特に棒たおしでは、水産男児ならではの豪快な戦いが繰り広げられました。また、部対抗の駅伝では、部の名誉をかけて戦われました。特別参加の陸上部が他を大きく引き離してゴールインしたことは見事でした。さらに、駅伝をはじめ各種競技に対する文化部からの参加が例年よりも増え、生物部が駅伝で三位に入賞したことは、驚かされました。

今回の体育祭で一番印象に残ったことは、下宿・アパートチーム、部活チームでの参加により、先輩、後輩が入り乱れてプレーを楽しみ、上



From 事務局

同期会等の
助成について

水産学部卒業生の集会の費用の1部を助成します。

10名以上の集会について、1人当たり1,000円(上限30,000円)を援助します。

詳細につきましては、三水会事務局まで連絡下さい。

連絡先

☎ 045-303-3135(石井方)

From 三陸町

海の幸セット
ご予約受付中

三陸町では、年末年始の食卓にふさわし海の幸の予約申込みを受け付けることにいたしました。

11月から12月にかけて水揚げされる海鮭やアワビなど、獲れたての海産物を中心に販売し、詰合わせもいたします。

是非お申し込みいただき、“水産の町・三陸町”を味わってください。

また三陸町では、アワビと鹿で村おこしを行っていますが、三陸町の漁民塾では、アワビ・ホタテ・つぶの稚貝や鹿角を使って、約60種類のアクセサリーを手づくりで作っています。60年度からは、三陸町よりの記念品として、卒業生の方々にお贈りしておりますので、ご存じの方も多いと思います。

今回、特別価格でご紹介申しあげますので、是非お申込みください。なお、今回ご紹介したものの他にも、ループタイ・イヤリング・ペンダント・帯どめ等もあり、また、名入れもいたしますので、ご希望の方は、漁民塾までお問い合わせください。

予約申込期限：平成元年10月31日

商品発送時期：平成元年12月中旬

申込方法：同封の葉書または官製葉書に、数量、申込者名(請求先)、送付先氏名・住所・電話番号をご記入のうえ、三水会事務局までお申込みください。

代金支払：商品に郵便振替用紙を同封いたしますのでご送金ください。

問合せ先

(海産物) 綾里物流観光センター「銀河」

岩手県気仙郡三陸町綾里字宮野40-1

☎ 0192-42-2541

(アクセサリー) 「漁民塾」

岩手県気仙郡三陸町綾里字館114-4

☎ 0192-42-2115

	品名	申込単位	単価	内容
1	活アワビ	1個	約1,100円	1個 約110g
2	鮭(雄)	1本	約2,100円	約3kg
3	鮭(牝)	1本	約3,900円	約3kg
4	新巻鮭	1本	約3,500円	約3kg
5	活カニ	1袋	3,500円	5杯入
6	活ホタテ	1袋	1,400円	殻長約11cm ×10枚入
7	塩蔵わかめ	1箱	1,200円	500g × 2袋
8	カットわかめ	1袋	310円	50g入
9	茎わかめ	1袋	310円	150g入
10	活ホヤ	1袋	300円	2kg (約10個入)
11	ネクタイピン	1本	2,000円	アワビとホタテの2種類があります。ケース付。
12	カフセット	1セット	4,700円	
13	ブローチ	1個	3,800円	

注1 送料別の価格です。送料は重量、距離により異なりますが、4kgまでの場合、670円～980円です。(東京は830円)。1梱包は12kgまでです。

注2 1～6の商品については、価格が確定していないため昨年の価格を参考にした予定価格となっておりますので、多少の増減があることをご了承ください。

注3 消費税込の価格です。